

平成23年度 群馬県立文書館ミニ企画展

# 高崎藩士深井家文書の世界

～ 平成23年度新規公開資料展 ～



深井家の人々が残した留書・日記



旗差物絵形伺い（持鍵奉行席就任に付）  
（P0902-416）

深井家文書は平成21年に故深井正昭氏より寄託され、平成23年に寄贈に切り替えられた文書群です。平成23年12月より新規公開され、当館で閲覧できるようになりました。

総数約830点からなる本文書は、高崎藩松平（大河内）家家臣として藩政に関わり作成・伝存された文書群と、明治時代以降の深井家私的文書から構成されています。江戸時代の武家のくらしをうかがうことができるだけでなく、高崎藩の藩政の様子もかいま見ることができる貴重な文書群です。

平成24年 1月6日（金）～ 3月30日（金）

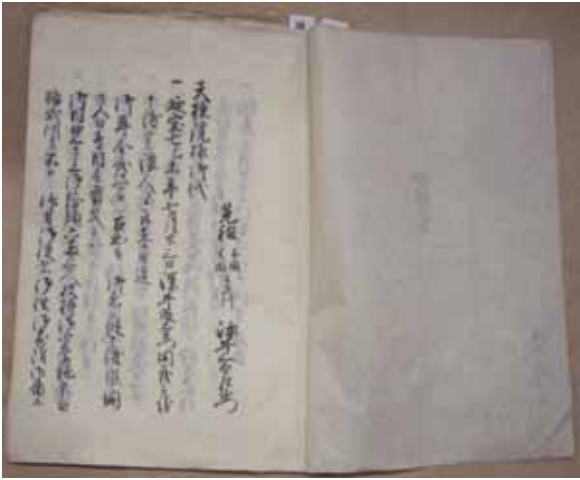
開館時間 9:00～17:00  
休館日 月曜日、祝日、月末日  
入場無料

群馬県立文書館

〒371-0801 前橋市文京町3丁目27-26  
TEL:027-221-2346 Fax:027-221-1628  
URL <http://www.archives.pref.gunma.jp>

## 【主な展示】

### 深井家の由緒



深井家由緒書 (P0902-103)

深井家文書には多数の由緒書・系図があります。由緒書とは家や地域などのルーツや歴史を書き記した史料で、特に武家の場合その家がいつ誰に仕官し何の役職についたのか、などが記録されています。その家の歴史のみならず、大名家家臣団の成り立ちや藩の組織などを調べる上でも貴重な史料です。

由緒書や系図によれば、深井氏は平姓の長尾氏一族で、武蔵国鴻巣に住んでいたようです。深井三太左衛門正真の時、松平信興（天桂院）に仕官し、信興死後はその養子松平輝貞（天休院）に仕え三五〇石まで昇進しました。次の治兵衛正武の時、主家とともに高崎に移り住み、以後深井家は高崎藩松平（大河内）家家臣として明治期まで活躍を続けることとなります。

### 深井家の記録と交流



深井正路（正景）留記（P0902-90）

代々の深井家の人たちは江戸時代中期から明治時代初めにかけて、留書・留記・日記など様々な名前の記録を丁寧に書き残しています。左のP0902-90は、深井正路（景）がわずか12歳で家督を継いだ寛政10年（1798）から天保3年（1832）にかけての役職や家族などに関わるできごとを整理した記録です。同様な記録は先代の正可も残し（P0902-89）、正親や正恕も多数の日記・道中記などを残し、深井家のみならず高崎藩の動きを知る上で重要な史料です。

### 展示史料一覧

\* 展示史料はすべてレプリカです

	史料名	年月日	文書番号
1	深井家系図	文化5年(1808)	P0902-123
2	深井家由緒書	安政3年(1856)	P0902-103
3	高崎城内絵図	年未詳	P0902-655
4	持鍵奉行席差物御書附	文政5年(1822)	P0902-82
5	旗差物絵形伺い(持鍵奉行席就任に付)	午年閏正月21日	P0902-416
6	深井正路(正景)留記	寛政10年(1798)	P0902-90
7	幕府代官吉川栄左衛門貞幹からの書状	年未詳 6月11日	P0902-348
8	使番深井三太左衛門手札(名刺)	年未詳	P0902-353
9	一ノ木戸領民よりの奉行留任嘆願書	慶応3年(1867)	P0902-88
10	高崎藩越後領分(一ノ木戸)絵図	年未詳	P0902-316